

特定非営利活動法人 日本肺癌学会

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が肺癌診療に及ぼす影響調査結果 (追加調査)

【目的】

2019 年末に世界で最初の感染者が出たとされる新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、2020 年に入り全世界に広がり、日本においては 2020 年 1 月 16 日に第 1 例目の患者が確認された。その後、同年春の第 1 波から 2022 年の第 6 波に至るまで、種々の変異株に移行しながら感染はいまだ継続している。COVID-19 の感染拡大により、癌診療への影響が懸念されている。

日本肺癌学会では、COVID-19 が肺癌診療に及ぼした影響を見るために、第 2 波が収まりつつあった 2020 年 10 月末に、原発性肺癌と診断され初回治療を受けた患者数の調査を行い、2019 年 1～10 月と 2020 年 1～10 月の各々 10 か月間の患者数の比較検討を行い、肺癌治療の新規患者数は、6.6% の減少を認め、2021 年 5 月に学会ホームページ上で報告した。

この初回調査の結果から、患者数に影響が表れたのは 2020 年 4 月からであったため、2019 年度 1 年間に対する 2020 年度 1 年間の肺癌患者への影響をみるための追加調査を行った。

【調査方法】

日本肺癌学会の評議員が所属する施設およびがん拠点病院に対しアンケート調査を行った。

調査票配信: 2021 年 8 月 3 日

調査票回収締切: 2021 年 9 月 30 日

調査内容: (添付書類参照)

- ・2019 年 4 月～2021 年 3 月における各月の治療法ごとの新規治療患者数
(初回調査期間に加えての追加調査期間: 2020 年 11 月～2021 年 3 月)
 - ・手術のみ
 - ・手術+術前後化学療法
 - ・化学放射線療法
 - ・放射線のみ
 - ・化学療法のみ
 - ・分子標的治療
 - ・PD-1Ab 単独
 - ・PD-1/L1Ab+化学療法
- ・施設が受け入れた COVID-19 治療患者数
- ・追加調査項目: 性別、病期別、年代、発見経緯について、2019 年度と 2020 年度毎に調査した。

調査依頼施設数 117 施設 (初回調査回答施設)

回答施設数 27 施設 (回収率 23%)

解析内容: 2019 年度 (2019 年 4 月～2020 年 3 月) と 2020 年度 (2020 年 4 月～2021 年 3 月) の新規治療患者数を比較した。

調査制作実施協力: がん情報サイト「オンコロ」

【結果】

- ・ 大学病院 14、がん専門病院 3、国立病院 4、公立病院 1、その他 5、計 27 施設からの回答であった。
- ・ 肺癌治療の新規患者数は、2019 年度の 12 か月間には 6471 例であったのに対し、2020 年度の 12 か月では 5564 例であり、14.0%の減少を認めた。また、すべての月で前年と比較し減少していた。
- ・ 治療法別では、手術療法 14.5%の減少、放射線療法 8.1%の減少、薬物療法 16.3%の減少率であった。
- ・ 化学療法のみ(-27.5%)と免疫チェックポイント阻害剤単独(-21.3%)の減少率が顕著であった。
- ・ 施設形態別では、国立病院(-22.4%)、公立病院(-18.3%)、大学病院(-15.7%)、がん専門病院(-12.6%)の減少率であった。
- ・ COVID-19 陽性患者を多く入院治療した施設では、肺癌治療の新規患者数が減少している傾向が認められた。
- ・ ステージ別では、進行期と比較し、IA 期がやや減少率が大きい傾向がみられた。
- ・ 性別、年代別での顕著な傾向は認められなかった。
- ・ 発見経緯別では、検診(-10.6%)、症状(-9.3%)、他疾患経過中(+6.7%)の増減率であった。

【結論】

- ・ まず今回の調査は、全国 27 施設という非常に限られた施設数からの回答によるデータとなったため、参考値と考えていただきたい。
- ・ 初回調査では、2019 年と 2020 年のそれぞれ 1 月から 10 月の 10 か月間の比較で、6.6%の減少であり、例年の年間新規肺癌罹患患者数 13 万人であることから、計算上は約 8600 人の方が肺癌の診断と治療の機会を逸していたと考えられた。
- ・ 今回の調査では、肺癌治療の新規患者数は、2020 年度に比較し 2019 年度は 14.0%の減少を認めた。計算上は、約 18200 人の方が肺癌の診断と治療の機会を逸したことになる。
- ・ 2021 年度以降、進行肺癌の増加が懸念される。

図1 2019 年度と 2021 年度の月別の肺癌治療数の比較

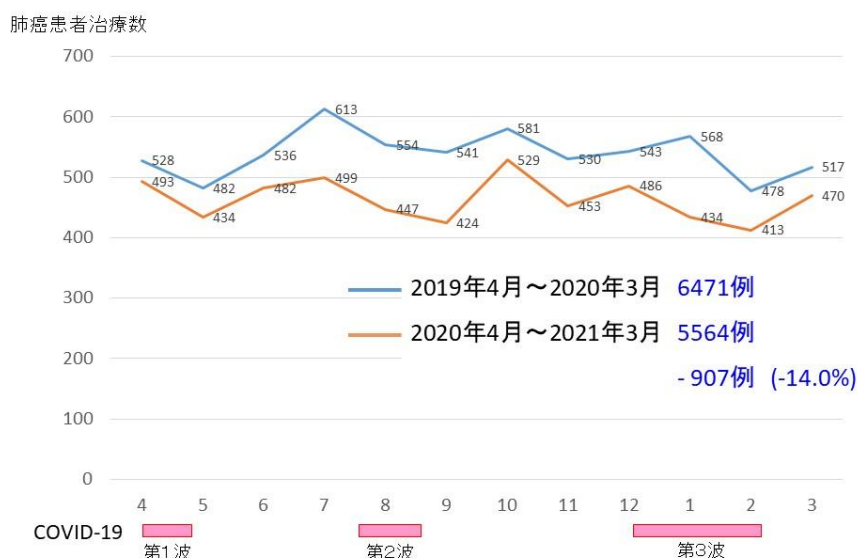


表1 エリア別施設数

エリア	回答施設数	頻度(%)
北海道	2	7.4 %
東北	2	7.4 %
関東(東京都)	5	18.5 %
関東(東京都以外)	2	7.4 %
北陸	2	7.4 %
中部	4	14.8 %
関西	4	14.8 %
中国四国	1	3.7 %
九州	5	18.5 %
合計	27	100 %

表2 施設形態別(27 施設)

施設形態	回答施設数	頻度(%)
大学病院	14	51.9 %
がん専門病院*	3	11.1 %
国立病院	4	14.8 %
公立病院	1	3.7 %
その他の病院**	5	18.5 %

* がんセンター、がん研

**日赤、済生会、共済組合、医師会立、各種法人など

表3 COVID-19 治療患者数毎の施設数(27 施設)

コロナ陽性の治療患者数	施設数
0	4
1~50	2
51~100	2
101~200	3
201~300	4
301~500	6
501~	6

表4 施設形態別の COVID-19 患者治療数

施設形態	COVID-19 治療患者数					
	0	1-100	101-200	201-300	301-500	500-
大学病院 (14)	1	4	2	2	2	2
がん専門病院 (3)	2	0	0	1	0	0
国立病院 (4)	0	0	0	0	2	2
公立病院 (1)	0	0	0	0	0	1
その他の病院 (5)	0	0	1	2	2	0

表5 全体(118施設)の肺癌治療患者数の増減

	2019年度	2020年度	増減数	増減率
手術のみ	3013	2600	-413	-13.7%
手術+術前後化学療法	528	427	-101	-19.1%
(手術 小計)	(3541)	(3027)	(-514)	(-14.5%)
化学放射線療法	428	391	-37	-8.6%
放射線のみ	596	550	-46	-7.7%
(*放射線治療 小計)	(1024)	(941)	(-83)	(-8.1%)
化学療法のみ	691	501	-190	-27.5%
分子標的治療	458	435	-23	-5.0%
PD-1Ab 単独	207	163	-44	-21.3%
PD-1/L1Ab+化学療法	550	497	-53	-9.6%
(**薬物療法 小計)	(1906)	(1596)	(-310)	(-16.3%)
合計	6471	5564	-907	-14.0%

* 放射線治療小計：化学放射線療法 + 放射線のみ

**薬物療法小計：化学療法のみ + 分子標的治療 + PD-1Ab 単独 + PD-1/L1Ab+化学療法

表6 COVID-19治療患者数による肺癌治療患者数の増減

治療患者数(施設数)	2019年度	2020年度	増減数	増減率
0-100例(8)	1857	1614	-243	-13.1%
101-300例(7)	2197	1942	-255	-4.2%
301-500例(6)	1240	1046	-194	-15.6%
501例以上(6)	1177	962	-215	-18.3%

表7 施設形態別の肺癌治療患者数の増減

施設形態	2019年度	2020年度	増減数	増減率
大学病院(14)	3,442	2,900	-542	-15.7%
がん専門病院(3)	1,396	1,220	-176	-12.6%
国立病院(4)	679	527	-152	-22.4%
公立病院(1)	153	125	-28	-18.3%
その他の病院(5)	801	792	-9	-1.3%

表8 エリア別の肺癌治療患者数の増減

エリア	2019年度	2020年度	増減数	増減率
北海道	468	439	-29	-6.2%
東北	596	473	-123	-20.6%
北陸	280	261	-19	-6.8%
東京都	1,486	1,331	-155	-10.4%
関東(東京都以外)	424	337	-87	-20.5%
関西	728	655	-73	-10.0%
中部	839	711	-128	-15.3%
中国四国	520	402	-118	-22.7%
九州、沖縄	1,130	955	-175	-15.5%

表9 ステージ別の肺癌治療患者数の増減

ステージ	2019年度	2020年度	増減数	増減率
IA	2,158	1,822	-336	-15.6%
IB	401	369	-32	-8.0%
IIA/B	398	374	-24	-5.9%
IIIA	443	393	-50	-11.2%
IIIB/C	319	287	-32	-10.1%
IV	1,422	1,227	-195	-13.7%
不明	181	198	17	+9.4%

表10 性別の肺癌治療患者数の増減

性別	2019年度	2020年度	増減数	増減率
男性	3,149	2,730	-419	-13.3%
女性	1,948	1,744	-204	-10.5%

表11 年代別の肺癌治療患者数の増減

年代	2019年度	2020年度	増減数	増減率
40歳未満	29	37	8	+27.6%
40歳代	147	137	-10	-6.8%
50歳代	434	367	-67	-15.4%
60歳代	1,272	1,053	-219	-17.2%
70歳代	2,117	1,941	-176	-8.3%
80歳以上	806	690	-116	-14.4%

表12 発見経緯別の肺癌治療患者数の増減

発見経緯	2019年度	2020年度	増減数	増減率
検診	572	512	-61	-10.6%
症状発見	469	425	-43	-9.3%
他疾患フォロー中	728	777	49	+6.7%
他施設からの紹介	666	653	-14	-2.1%
その他	80	89	9	+11.2%
合計	2,515	2,455	-60	-2.4%

令和4年(2022年)4月8日

特定非営利活動法人 日本肺癌学会
 理事長 弦間 昭彦
 総務担当副理事長 杉尾 賢二